



国際会長 (IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE”

「命の川を信じよう」

会長 古賀 健一郎  
副会長 金子 功  
書記 金子 功  
会計 大高 治  
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

「変化を楽しもう」

“Let's enjoy 'Changes' ”

湘南・沖縄部部长 (DG) 古田 和彦 (横浜)

「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共にYMCAに仕えよう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「クラブ創立90周年の恵みの中、YMCAと共に未来を開く」

“Blessing of club 90<sup>th</sup> anniversary, open the future with YMCA”

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 奥菌 一紀

### <今月の聖句>

松島 美一

愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

(ローマの信徒への手紙12章9節)

### 今月のひとこと

#### 「ワイズ理解月間」に想う

金子 功



11月10日はワイズデー=Y's Dayである。1928年、大阪ワイズメンズクラブが日本で初めて設立され、国際協会に加盟した日に因んで、この日を東西日本区がワイズデーとして設定し、11月をワイズメンズクラブへの理解を深める「ワイズ理解」の月間としている。

たまたま「今月の一言」を執筆する機会を与えられたので、私が横浜クラブのメンバーに加わり、如何にワイズライフがその後の人生にとって有効に機能し、楽しんでいるかの一端をお伝えしたいと思った次第である。

私が縁あって横浜クラブに入会したのは、2007年4月である。今年で14年目を迎えた。ワイズメンズクラブについては、

横須賀YMCAの運営委員、国際事業委員等横浜YMCAのレイパーソンとして横浜YMCAに関わらせていただいていた事からよく知っていた。横浜YMCA最大のイベントであるチャリティーランの実行委員としてワイズメンと一緒にボランティア活動に参加したり、いくつかのクラブに卓話者として招かれたこともあった。

戦後いち早く再開された横浜YMCAの少年部でお世話になった横浜YMCAに多少なりともお返ししたいと言う気持ちは、運営委員や事業委員の立場で十分果たせると思っていた。ところがワイズメンになって気がついた事は、ワイズはいわゆるクラブ活動でYMCA活動を支援するというクラブとしての理念をもちながら、クラブメンバーとして素晴らしい仲間との出会いを提供し、人間性を更に高める場を提供してくれることであった。

現役時代も仕事上素晴らしい人格の持ち主との出会いは多くあったが、今考えてみると、年賀状のやりとりする場合もあるが多くの場合一過性で継続性には乏しい。ところが、ワイズメンズクラブは毎月例会をもち、卓話を中心として、クラブメンバーが交流する機会にめぐまれている。YMCAに対する支援活動もレイパーソンはYMCAと各委員が一本の線で結ばれているのに対し、ワイズメンズクラブはYMCAと太いパイプで結ばれている事にワイズになってから気がついた。最近のワイズメンの有志による「つながるマスク」運動はそのことを如実に示している。この運動により、ワイズの有志グループは1,000枚以上のマスクを手作りし、横浜YMCAの学童や留学生に提供した。こうしたことは一個人、又は、一委員としては不可能な事である。

私は、何度かYMCAの世界大会やアジア大会、或いは、横浜YMCAが展開するアジアの諸外国を対象にした国際協力事業に参加する機会に恵まれた。外国の代表者に会ってお互

<2020年10月例会実績 Zoom 併用開催>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 8名 メネット 1名 コメント 0名 ビジター 11名 ゲスト 2名 合計 22名	75 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<11月の行事予定>

ワイズ理解、ASF、ファミリーファスト

日	曜	時間	行事内容	場所
12	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央 Y+Zoom
14-30			第23回チャリティーラン	オンライン
18	水	16:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
28	土	15:00	第2回部評議会	中央 Y+Zoom

いにワイズメンであることを確認した時には、一気に打ち解け合い話が弾む経験も度々味わった。

横浜クラブのメンバーであることから、世界につながるワイズである喜びと一緒に味わいませんか。ワイズメンズクラブへの入会を強くお勧めします。

「10月第一例会報告」

古賀 健一郎

- 日時 : 10月8日(木) 18:30~20:30
- 会場 : 横浜中央YMCA606号室
- 出席者 : 伊藤ル・メ、奥菌、大高、齋藤、佐竹、古田、古賀
- ゲスト : 吉村恭二(元横浜YMCA総主事、卓話者)
- ビジター : 浦出、加藤、若木ル・メ(以上、横浜とつか)、鈴木(横浜つづき)
- Zoom出席者 : 金子
- ゲスト : 秋元美晴(恵泉女学園名誉教授)
- ビジター : 伊藤(東京多摩南)、日下部(厚木)、白井(大阪長野)、高田(千葉ウエスト)、千葉(鎌倉)、辻(横浜つづき)



Zoom参加者を真ん中に例会出席者一同

例会は、大高ワイズの司会により定刻に開始。会長の開会点鐘、挨拶。ワイズソングは割愛し、ワイズの信条の唱和。今月の聖句朗読と解説は、金子ワイズに代わり古賀ワイズが代読。古賀会長によるゲスト・ビジター紹介。今回の例会も、会場に加えZoomでも多数の参加をいただき、豊かな交わりの例会となり大変うれしく感謝でした。

横浜クラブ創立90周年記念行事の一環として、9月、10月、11月の卓話者を横浜クラブと関わりの深い方々をお願いしておりますが、今回の10月例会の卓話は、元横浜YMCA総主事の吉村恭二氏による『今日の横浜YMCAの姿を創り上げるために、お導きくださったY'sの方々をしのびつつ』と題してのお話。(吉村さんのお話の抜粋は後述いたします)吉村さんのお話を伺いながら、横浜クラブの長い歴史において、私共の諸先輩が横浜YMCAと協働体制で地域からはじまり、海外にまで向けて、希望の光を灯し続けてきたことを学ぶ貴重な機会となりました。

卓話の後はビジネス。12月12日の横浜クラブ創立90周年記念式典を含めた今後の予定等を確認しました。今月のハッピー・バースデーは、若木祥子メネットを拍手でお祝いしました。ロバ献金は6,500円。会長の点鐘で閉会し、全員でZoom参加の方々も一緒に記念撮影しました。

+++++

『今日の横浜YMCAの姿を創り上げるために、お導きくださったY'sの方々をしのびつつ』と題して(吉村恭二、元横浜YMCA総主事の卓話から)



卓話中の吉村恭二氏

(お話の抜粋)

私の(横浜YMCA総主事時代の)26年間を振り返る時、折に触れてワイズメンズの方々いろいろなお世話になり、あらためて感謝申し上げたい。

私は広島YMCAから熊本YMCAを経て、1972年横浜YMCA総主事として赴任した。慣れない土地で最初の取り組みは老朽化した本館の新築だった。建設募金に奔走した、横浜クラブで日本区理事であった高取寿男ワイズのご紹介で、横浜の企業からの大口の募金を集めた。県と市も融資に理解を示し官民の協力の下、現在の本館が完成した。

次の取り組みは、急増していた横浜の人口に着目し、本館以外の場所での地域に根ざす事業活動を目指した。第1号の会館となった戸塚センターが好評を得たのに続き、二俣川センター、菊名センターが建てられた。そして北YMCA(プー

ル付き)においては、近くに盲学校があり、ノースワイズメンズクラブの設立と同時に、目の不自由な子どもたちの為の水泳教室は地域で大きな反響を呼んだ。

その後、藤沢、川崎、横須賀、大和、厚木、金沢八景、山手台・・・等に会館が建てられていった。そして『ACT』が外国語専用のセンターとなった。『湘南とつかYMCA』は横浜YMCA 創立110周年事業として、とつかYMCA と、ワイズの皆様(加藤利榮元日本区理事)のご協力のお陰で設立された。今や370万人の大都市となった横浜において、YMCAがさらなる地域に寄り添って発展する余地は充分あると考える。

(地域社会に根ざした活動に加え)横浜YMCAの特色の一つである『国際交流プログラム』は大変充実している。横浜クラブの杉本恭之介ワイズは国際事業委員長として『青年たちの国際交流の必要性』を積極的に説かれ国際事業に力を注がれた。そして上海、光州、台北、バンクバー等のYMCAとの国際交流が始まった。(加藤利榮ワイズも団長を務められた)聴覚障がい者青少年の為の国際キャンプ参加目的で、マレーシアへの研修旅行も実施。横浜クラブの吉田登ワイズは私財を投じて資金提供し、タイ北部の山岳少数民族のいるパヤオに建物を建て、子どもたちを人身売買の危険から守る児童保護プロジェクトを支援した。

横浜YMCAは海外でも様々の奉仕プログラムに取り組み、いずれも長期的に継続している。そこにはワイズの方々がいる。いろいろな形で支えて下さった。上述したワイズの方々に加え、横浜クラブの岡田吉民ワイズは横浜YMCA常議員会議長として銀行を含め取引先のご紹介などで大変お世話になった、スイミングクラブの事業に尽力された横浜クラブの里吉時夫ワイズ・・・等と、こうした数多くのワイズメンの方々のおかげ

きよって、『今日の横浜YMCAの姿』が創り上げられてきた。

今、いろいろな意味での



熱心に傾聴されるビジターの方々

貧困問題があり『新しい貧困の発生』が全人類を覆っている。言語とコミュニケーション、社会諸資源の貧困、傾聴の貧困・・・等、経済的な貧困に加え、そういった様々な貧困があることを考えていくと、まだまだやらなければならない課題が沢山ある。YMCAのYoung Men's Christian Associationの『Association』の意味は? 『人それぞれの価値観の違いがあって当たり前である。しかし皆が何らかの形で一緒になって、力を合わせて同じような方向を向いて仕事をしたり、支え合っていることが必要だ』が、その意味に込められた、Young Men's Christian Associationである。これはワイズメンズクラブでもそうでしょう。『いろいろな職業、年齢、性別、文化をもった方々が一緒になって交わりを深め、共に生きていくこと』・・・。

これだけ巨大化した社会機構の中で、等身大(human scale)の“ぬくもりがある関係”を大切にしていけることを、皆様と共に考えていきたいと思ひます。

日時: 10月3日(土) 15:00 - 17:00

出席者: 横浜(伊藤、大高、古賀、齋藤、佐竹、田口、古田)

湘南・沖縄部の各クラブの他、十勝、甲府21、横浜YMCAなど、総勢52名。

第一部 開会礼拝 15:00~15:15 司会: 瀬戸敏孝氏(横浜とつか)

聖書: ローマの信徒への手紙 8章26.28節

奨励: 「万事が益となるように」

日本キリスト教団田園都築教会 相賀昇牧師(横浜つづき) コロナのような困難や苦しみも万事、神に委ねて励んで行こう。垣根を越えてワイズ相互の繋がりを高めよう。神様は私たちと共に居て重荷を背負って下さる。

祈禱: 相賀牧師

献金: 「COVID-19 禍 留学生・専門学校生支援のために」



三密を避けて整然と並ぶ参加者  
中央は相賀牧師

佐竹総主事へ。

参加者からの48,890円; 古賀会長(横浜クラブ)の献金感謝の挨拶と共に、後日、会費から支出残及び、懇親会残の計34,700円を古田部長から。合計83,590円。

黙禱

第二部 部会 15:15~15:45 司会: 伊藤部書記

開会点鐘: 古田湘南・沖縄部長

ワイズの信条; 参加者一同

出席者紹介: 鈴木弥也子氏(第三部講師)、山田敏明東日本区直前理事、佐竹横浜YMCA総主事、甲府21の6名(24回東日本区大会のホストクラブ)、以下横浜クラブから横浜つづみまで8クラブ

挨拶: 次の3者から挨拶を頂いた。



開会の挨拶をされる古田部長

- 古田部長；クラブを越えた交流が活発になり、部報も発行。部長訪問は沖縄を残すのみ。
- 佐竹総主事：4月に就任。YMCAの施設をご利用



挨拶中の佐竹総主事

頂けることに感謝。頂いた献金は Positive Net として有効に使わせて頂く。本日の講師の鈴木氏には今後も広く世界で活躍して頂きたい。古田部長のクラブを越えた結びつきに感謝。

- 山田東日本区直前理事：仙台での28回東アジア大会の成功に感謝。次の理事は



山田直前理事のご挨拶

湘南・沖縄部から選出して頂きたい。新クラブを立ち上げた横浜つるみの久保さんにも感謝したい。

アピールタイム：

- エクステンションの辻委員長；横断幕に記載の「3クラブ周年記念」を強調。部の会員増加目標は47名。自助、共助、公助があるが、東日本区も奨励金、助成金の用意がある。繋がりマスクも参加者が20名に増加、非会員も加わっている。会報を発行して会員増強にも繋げたい。
- 横浜クラブ（古賀会長）；12月に90周年記念行事を予定。9月から11月と3名の先達から卓話をして頂く。
- 横浜つづき（鈴木会長）；注力のYou & I コンサートは今年中止。2021年5月には15周年記念行事を予定。
- 甲府21；第24回東日本大会（6月12～13日）のホストクラブ。あずさ部も協力。富士山5合目までのエクスカージョンを予定。「大勢の参加を」と6名が横断幕にてアピール。



遠路駆けつけてくださった甲府21クラブの皆様

ンを予定。「大勢の参加を」と6名が横断幕にてアピール。

- 金沢八景も来年2月15周年を迎える。

第三部 記念講演 15:45～16:55 司会：伊藤部書記  
「環境問題を考える」—気候変動を止めるために今日から出来ること—

講師；鈴木弥也子氏—明治学院大学法学部4年在籍、横須賀

YMCA キャンプリーダー。アジア・太平洋 YMCA 同盟環境問題ユースグループに日本代表として参加。「Friday For Future(FFF)横須賀」の設立メンバー。日本の「グレタ世代」の若者の一人。

概要

- 世界10か国の若者と密な繋がりを体験、世界中に仲間が居る



講演中の鈴木弥也子さん

ことの強みをビデオにて披露。香港の民主化の活動家と交流し、日本の平和の尊さを痛感。

- スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんの活動と同じ方向ではないが、地球は非常事態下。日本の気候変動は7月の九州での大雨、夏の猛暑、雪の少ない冬に代表される。
- CO2の削減が進まなければ、2100年の冬2月の天候は東京26℃、京都25.2℃。熱中症発生、大豆は高級食材に。雪は



講演の後は大勢の人から質問が続出

人工造雪機で造るも貯えられず、桜は咲かない。

- 日本の2013年比2030年の温室効果ガス排出削減目標は低い方。EU；-40%、日本；-26%。発電を石炭に頼っているためだが、日本は環境後進国ではない。
- 今日からのアクション；若者は声を上げよう。再エネ電力会社へ切り替え、肉を食べない日を設け、畜産業での温室効果ガスの排出量を減らそう。個人ベースの変化よりシステムの変化が求められる。
- ガンジーは「あなたがこの世で見たいと思う世界の変化にあなた自身がなりなさい」と言う。

田口同盟総主事の挨拶；

YMCA が生まれた時から気温は既に1.5℃上昇。自然エネルギーへ

のシステム変更を横浜YMCAからスタートし、漸次全体に広げる計画。



同盟総主事の田口さんから締め括りのご挨拶

(部大会の全ての写真は、横浜 YMCA 広報担当の池田直子さんからご提供頂いたものです)

## 「臨時部評議会報告」

伊藤 誠彦

日時 : 10月24日(土) 15:00~16:15  
場所 : 横浜中央YMCA606教室(Zoom併用)  
出席者 : 部評議会構成員24名

内、横浜クラブは伊藤、大高(委任状)、金子(Zoom)、古田

沖縄クラブより古田部長宛に10月14日付で「今後の沖縄クラブの運営について」と題する次の主旨の連絡がありました。

- ・沖縄クラブはより沖縄地域に特化した活動を行うため、沖縄部を設立し、湘南・沖縄部から独立し、沖縄部は本来あるべき西日本区に所属する
- ・協力をお願いしたい

これに対して、古田部長は臨時部評議회를招集し、部としての立場・対応を協議し明確にすることにしました。

会議は古田部長による議事進行で行われ、最初に定足数の確認が行われた。出席者は24名(内、Zoom参加者3名、委任状参加者7名)で評議会構成員の過半数に達しており、評議会成立要件を満たしていることが確認された。

続いて、古田部長より沖縄クラブからの申し出内容の説明があり、沖縄の独立には基本的に賛成であるが、沖縄那覇クラブの同意が前提であると、部長個人としての意見が述べられた。

沖縄那覇クラブとの関係について、Zoom参加の伊藤康一沖縄クラブ会計より、説明があった後、出席者から様々な意見・感想が述べられたが、クラブとして湘南・沖縄部、東日本区を離脱し、新たに西日本区に所属する部を設立するという今回のケースは、前例の無いケースであり、東日本区定款第3条第9項にあるクラブの解散に準じて、区役員会で扱われるべき事項である。従って、部の対応としては、区理事に湘南・沖縄部の立場を正確に伝えることであるとの結論に至った。

以上の議論を古田部長がひきとり、部の立場を次のように総括した。

- ① 沖縄クラブの申し出はその通りに進めることに同意する。
- ② 沖縄那覇クラブの皆さんの気持ちや考えを確認し、円満に移行することを願っているため、部長がそのあたりを聴取する。ただし、このことによって、今回の申し出に対する同意を変えるものではない。
- ③ 今回の申し出は、クラブ会長からの申し出ではないので、改めて、クラブ会長による正式な申し出を求める。

一同、以上の総括を了とし、16時15分閉会した。

## 次期部長選考委員会報告

古田 和彦

去る10月3日(土)部大会の前13:00~14:30に第1回を、10月24日(土)臨時評議会の後、16:25~17:05に第2回の2回にわたり、次期部長と次々期部長の選考に関する

次期部長選考委員会を開きました。

本来なら、次期部長は昨年の今頃に決定していなければならなかったのですが、残念ながらまだ決まっていない状況です。毎回難航することを何とか解決したいと考え、選考のルールをまず定め、それには全員が誠意をもって従うことにすることとしました。

第1回目には、種々議論の結果、次のように合意しました。

- ① 次期部長(次々期部長を含む)を選考するにあたっては、輪番制を取ることにする。
- ② 輪番は、単独クラブで受けることは現実的でないため、数クラブのまとまりの中から選ぶ。

そこで、グループ案の検討をしているうちに時間切れとなり、第2回に持ち越しました。

第2回に先立って、古田部長からの案、そのほか3名から4案が出されました。

ところが、沖縄クラブから沖縄部の創設申し出があり、第2回の選考委員会に先立つ臨時評議会での申し出を承認することになりましたので、沖縄の2クラブを除いた輪番制を取ることになりました。

検討の結果、Aグループ 横浜、鎌倉、横浜とつか、金沢八景の4クラブ、Bグループ 厚木、横浜つづき、横浜つるみの3クラブとし、次期部長はAグループから、次々期部長はBグループから候補者を選ぶこととなりました。また、部長の仕事はできるだけ軽減すること、任意のサービスクラブであるので、善意で信頼し合って運営するよう心がけることを申し合わせました。今後、グループごとに早急に候補者を選ぶこととなります。

## 近況「事情が一変」

松島 美一



この1年ほど、身体不自由な妻の介護で自由に外出ができなくなり、ワイズの例会やYMCA関連の集会へも欠席続きでした。ところがこの二週間ほど、事情が一変しました。不自由さが増してきた妻が洗面所で転倒しました。病院

で診てもらったところ、左大腿骨頸部骨折で直ちに手術が必要とのこと。手術後も四週間は入院が必要とのことでした。

10月14日、金属製の人工骨頭挿入手術を受けました。当日、私は手術室に入る妻を見送り、術後に医師の説明を受け、手術室から出てきた妻を病室前まで見送りました。病室には入れませんでした。その後もコロナウイルス感染症の流行状況を理由に私や家族の面会は禁止となっています。

その後の医師からの電話連絡によると、永年のパーキンソン病の影響もあり体力が弱っている。特に飲み込む力が落ちている。誤嚥性肺炎の恐れもあり、栄養、薬補給のため鼻から管で胃に入れることと、過度の延命措置はしないこととの了解を求められました。私も外出可能になりましたが、在宅し不安にかられつつ、電話器の前で病院からの連絡を待つ日々です。ご加増ください。

## 第二例会報告

## 伊藤 誠彦

日 時：10月22日(木) 16:30~18:00 (Zoom 例会)

出席者：伊藤、大高、金子、古賀、古田

協議・確認・検討事項

(1) 今後の行事予定の確認

(2) 協議・報告事項

1) 11月第1例会(11月12日18:30~20:15)

ハイブリッド例会実施(横浜中央 YMCA 606 教室+ Zoom) 卓話者 高田一彦(千葉ウエストクラブ)

2) 横浜クラブ90周年記念行事実施のための準備

① 礼拝(第一部)と例会(第二部)の実施：12月12日(土)

「第一部」礼拝

・司会 押川牧師

・奏楽 古賀智子

・奨励 押川牧師

「第二部」例会

・会長挨拶・報告 古賀会長

・来賓者挨拶 東日本区理事 板村哲也

湘南・沖縄部長 古田和彦

日本 YMCA 同盟総主事 田口努

横浜 YMCA 総主事 佐竹博

② 礼拝・例会出席者

・会場は中央 YMCA チャペルであり、三密回避のため出席者は40人強に絞らざるを得ない。

・そのために案内を出すべき方々の人選について、古賀会長の案を基に協議した。

(因みに、80周年記念式典の時は、同じ中央 YMCA チャペルの会場で出席者は80余名)

③ 熊本スピリットクラブとのDBCを前に進めるため、引き続き齋藤ワイズを窓口にして具体化のための交渉をする。

④ クラブ90年誌の編集計画を具体化していく(12月発行) 国際会長、東日本区理事他メッセージの寄稿をお願いしている人からいまだ返事が無いため、改めてコミュニケーションを図り寄稿をお願いする。

90年誌の印刷部数は後日検討する。

3) 沖縄クラブからの申し出(当ブリテン「臨時部評議会報告」参照)について

沖縄クラブのみならず、沖縄那覇クラブの意向も十分斟酌して進めることを確認した。

4) 11月ブリテン編集計画の確認

りにくいと言われています。

・週に1回は人と出会い、交流し会話をする。

・1日に3.2キロ、または60分歩く。

・週3回は、ややきつと感じる程度の運動をする。(できれば4種目以上)

・歌を歌う、楽器を演奏する。ダンスをする。

・余裕があれば、奉仕活動をする。

・失敗を恐れず新しい物事に挑戦する。

・日記をつける。

・料理をする。たまには新しい料理にも挑戦する。

・ためになる情報は、わかりやすく人に伝える。

・毎日少量の魚を食べる。

・迷っても、たまには、はじめての道を通る。

・暮らしの中で、必要な計算をする。

作業療法士は日々の暮らしの中に認知症予防のヒントがたくさんあることを見つけ、何か特別なことをしなくても、生活の中で取り組むように提案しています。

ワイズ活動は上記の多くの推奨作業を自然と取り組んでいるように思われます。また、今後、私たちはコロナとうまく付合っていく必要性があり、生活不活発によって心や身体が病につながってしまう可能性も高いと思われます。そうした意味でもワイズ活動の意義はさらに高まるように感じています。

### 11月例会プログラム

日時：11月12日(木) 18:30~20:15

場所：横浜中央YMCA 606 教室

司会：齋藤 宙也

1. 開会点鐘及び挨拶 . . . . . 古賀会長

2. ワイズの信条 . . . . . 全員

3. 今月の聖句 . . . . . 松島ワイズ

4. ゲスト・ビジター紹介 . . . . . 古賀会長

5. 卓話「横浜 YMCA、Y's と私」  
高田 一彦(千葉ウエスト)

6. ビジネス・報告 . . . . . 古賀会長

7. **Happy Birthday** 大高幾子、伊藤日比朗美、押川幸男、伊藤誠彦

8. 閉会点鐘 . . . . . 古賀会長

例会報告：伊藤 誠彦

### 12月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
1	火	19:00	第89回Y-Y's協議会	中央Y+Zoom
12	土	15:00	90周年記念式典	中央Y+Zoom
19	土	18:30	横浜Yクリスマス礼拝	紅葉坂教会

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥蘭一紀にご連絡下さい。

メール [okuzono\\_kazuyoshi@yokohamaymca.org](mailto:okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080



担当主事 奥蘭 一紀

厚生労働省の発表によりますと、日本の認知症高齢者の数は、2012年で462万人と推計されており、2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人が達することが見込まれています。これからは、認知症は誰にとっても身近なものになると考えられます。

普段、席をおいております横浜 YMCA 学院専門学校では作業療法士を養成しています。大阪にあります作業療法士会の報告によりますと、以下の生活習慣がある人は認知症にな